

第12回蓮如賞 受賞作関連新聞報道

《平成23年10月21日（金）朝刊》（中外日報以外）

●京都新聞

文化の表現評価
芳賀氏に蓮如賞
第12回蓮如賞（本願寺文化興隆財団主催）が芳賀徹・静岡県立美術館長（80）の著書「藝術の国日本―画文交響」（角川学芸出版）に決まり、20日発表された。

賞はノンフィクション作品が対象。受賞作は平安時代から親密だった絵画と詩歌文学を比較文化の手法で読み解いた論文とエッセーで編まれている。選考委員の梅原猛、三浦朱門、柳田邦男、山折哲雄の各氏から「日本の精神文化を的確に捉え、簡潔に表現している」と評価された。賞金200万円。

12月10日に京都市山科区の東山浄苑で授賞式がある。（行司千絵）

●読売新聞

元造形芸大学長
芳賀さんに蓮如賞
本願寺文化興隆財団（山科区）は20日、優れたノンフィクションなどの作品を表彰する「第12回蓮如賞」に、元京都造形芸術大学長芳賀徹さん（80）の「藝術の国日本―画文交響」（角川学芸出版）を選んだと発表した。賞金は200万円。

授賞式と公開シンポジウムは12月10日午後3時から同区の東山浄苑で行われる。

●中日新聞（滋賀版）

★蓮如賞に芳賀徹氏
本願寺文化興隆財団（京都市）は20日、第十二回蓮如（れんに）賞に比較文学者の芳賀徹氏（80）の「藝術の国日本―画文交響」（角川学芸出版）を選んだと発表した。賞金は200万円。

芳賀氏は山形市生まれ。京都造形芸術大学長などを歴任し、現在、静岡県立美術館長。愛知県岡崎市美術博物館長を今年六月まで務めた。東京都文京区在住。

●中外日報

平成23年10月25日（火）

●産経新聞

蓮如賞に芳賀徹さん
優れたノンフィクション作品に贈られる第12回蓮如賞（本願寺文化興隆財団主催）の受賞作に20日、元京都造形芸術大学学長の芳賀徹さん（80）の「藝術の国日本―画文交響」（角川学芸出版）が選ばれた。副賞は200万円。12月10日に東本願寺東山浄苑（京都市山科区）で授賞式が行われる。

哲学者の梅原猛さん、作家の柳田邦男さんが選考し「詩歌と絵画を中心に古代から現在に至る日本文化を論じた力作」などと評価された。

●毎日新聞

蓮如賞に芳賀徹さん
優れたノンフィクション作品に贈られる「第12回蓮如賞」（本願寺文化興隆財団主催）の選考会が20日、京都市であり、比較文学者の芳賀徹さん（80）の「藝術（けいじゅつ）の国日本―画文交響」（角川学芸出版）が選ばれた。文学と絵画が互いに影響を与えあいながら、日本文化が継承されてきた歴史を解き明かす。

「蓮如賞」に芳賀氏

授賞作発表会見で、選させ日本の特性をどうえ創的。比較文学を日本に考委員の柳田邦男氏（作た）、梅原猛氏（哲学 根付かせた功労者）、山家）は「言葉表現と絵画（者）は「日本、フランス 折哲雄氏（宗教学者）はによる表現を見事に融合 の時と絵画を見る目は独「フランス」といふ怒を通

一般財団法人本願寺文化興隆財団（大谷暢順理事長）は20日、日本の精神文化に根差した、優れた文学作品（ノンフィクション）に贈る「第12回蓮如賞」に、芳賀徹氏（80）国際日本文化研究センター名誉教授・京都造形芸術大学名誉学長Ⅱの「藝術の国日本 画文交響」（角川学芸出版）を選んだと発表した。賞金は200万円。授賞式と記念公開シンポジウムは、12月10日午後3時から京都市山科区上花山旭山町の東本願寺東山浄苑「羅枝堂本堂」で開かれる。

して体得したイコノグラフィー（図像学）と比較文化の手法を日本美術の解読に活用した」など選考理由を語った。

（形山俊彦）